

PCC NEWS & LETTER

日本赤十字社医療センター緩和ケアカンファレンス

vol.02 2018.6.



2018年5月9日第141回PCC開催

地域の緩和ケア紹介

今回は、渋谷区初台（初台駅前）にある柏木クリニックの柏木潤一先生、新宿区大久保にあるファークロス薬局新宿の佐川祐佳先生に、施設の特徴や事例を通じた活動をご紹介いただきました。柏木先生は、地域で心不全患者さんの終末期医療にも実績があるというご紹介でした。高齢社会となった今、がん以外の緩和ケアも重要な課題となっており、大変心強いご紹介でした。



ファークロス薬局新宿は、取扱い麻薬の種類が豊富で滅菌調剤も行っていること、対応範囲が広いことなどの特徴がありました。オピオイドを地域で使用していく上で、このような薬局との連携は安心に繋がると感じました。



細川先生のご講演



「新規薬剤を含めた麻薬の効果的な使い方とスイッチングのコツ」
教育講演

クラフト株式会社 さくら薬局 薬剤師 細川泰博先生からは、麻薬の効果的な取扱い方を中心にお話しいただきました。オピオイドの種類が増え、スイッチングの機会も増えていきます。しかし、オピオイド製剤はそれぞれ異なる特徴があり、吸収・代謝・分布・排泄等の体内動態や作用部位を理解した上での切り替えが必要になります。これを安全、かつ効果的に行うためには薬剤師の役割が大変重要であることが話されました。又、オピオイドの代謝経路による副作用への留意点や、併用により効果が減弱したり増強したりする薬剤についても説明がありました。主治医と緩和ケアを行う医療従事者の連携が重要だとあらためて実感しました。

PCU便り

【お花見会】

毎年恒例のお花見会を開催しました。近隣の施設のご協力を得て、車いすやベッドでお出かけします。桜は咲いている期間が短いので、毎年日程の調整は大変ですが、季節を楽しむ機会は、参加者みんなを癒してくれました。



当医療センター緩和ケア科 緩和ケアチーム 竹井清純医師からは、スイッチングの方法やその際の注意点についてお話しいただきました。内服が出来なくなったら、薬を飲む数時間前に痛みが強くなる場合は？など、具体的な場面で、薬剤の動態や病状の変化に応じ、投与経路や薬剤を変更していく考え方を示していただきました。疼痛コントロールと治療を同時に行うこともあるため、併用薬にも目を配っていく必要があります。今回も多くの事を学べたカレンスでした。



第142回緩和ケアカンファレンス

2018年7月11日 19:00~20:45開催予定

第143回PCC教育講演は「子どもを持つがん患者をどう支えるか～チャイルドケアプロジェクトの活動を通して～」 講師は四国がんセンター心理士 井上実穂先生です。がん患者さんだけでなく、お子さんを孤独しない支援について考えたいと思います。

なお、この会は、日本医師会生涯教育カリキュラムと緩和薬物療法認定薬剤師単位の取得対象になります。ふるってご参加ください。

編集後記

PCC News Letter 第2号をお届けします。最近、患者さん、ご家族、地域の方からの緩和ケアについてのお問い合わせが増えています。緩和ケアが、一般的なものになりつつあることを実感する一方で、知識を向上し続けていかなくてはと実感しています。今後も皆様と共に地域の方々を支えられるよう、学んでいきたいと思っております。

